

# ✿ 令和2年度 くまもと・わくわく基金 ✿

冠基金 公益社団法人 熊本法人会ファンド

## 事業報告

---

団体名： NPO法人くまもと新創生プロジェクト

助成事業名： 世界に誇る「くまもとの水」啓発応援事業

## 団体紹介

2016年の未曾有の災害、熊本地震を体験し、何か熊本の復興にお役に立てないかと、有志が集まり、提言や新しい熊本づくりのヒントになることを考えていこうと模索して活動を開始しました。まず成果として、2017年に「熊本創生のみちしるべ」という本を発行しました。

○現在の活動内容は？

NPOの活動としては、東海大学の協力を得て「熊本地震の教訓」と題し1年間毎月講座を開催。2019年には、熊本市のわくわく基金の助成を受け、外国人をお呼びし「おもてなし講座」を開催。またくまもとがもっと元気になってもらうため「くまもと元気かい」という講座を月1回ペース（現状はコロナ禍でトビトビで開催）で経済面から小さい会社経営者等を対象に講師を呼んで行っている。また日本広報学会や日本観光学会と共同での取り組みも行っている。

## (1)実施内容

# 熊本の水を知る

NPO法人 くまもと新創生プロジェクト

# (1)実施内容

コロナによる社会状況の変化により講座開催(事業1)が難しくなり開催を1回に変更した。

事業2の手引き書の内容を充実させ、500部から1000部に増刷した。

## 事業1



「くまもとの水をもっと知ろう」講座を開催します。

本来なら10月にアジア・太平洋水サミットが行われる予定でしたが、コロナ禍で延期となりました。2022年4月に行われるサミットは世界へまた日本中に熊本市の水を紹介できるチャンスです。

そのためにも熊本市民がより熊本の水への理解を深め、一人ひとりが水のことを詳しく知っておく取り組みをしていくことが重要です。市民と共に熊本の水をより理解し、県外の人や海外の人をもてなす基になるために、講座を2回行います。

もっと深い「くまもとの水」を学び共に考えましょう。

**第一回 熊本の水を知る～熊本の水を世界へ発信する～**

日時：令和2年10月31日(土) 午後2時～4時

場所：市民活動支援センター・あいぽーと (交通局目の前)

熊本市総合保健福祉センターウエルバルくまもと1階  
〒862-0971 熊本市中央区大江5丁目1番1号

【公共交通機関をご利用の場合】 電車・バス：「交通局前」下車徒歩すぐ  
市道(産業道路)バス：「大江四丁目」下車徒歩3分

**入場無料**

# 熊本の水を知る

NPO法人 くまもと新創生プロジェクト

会議101

会議室  
定員が満員の際は  
隣室に、  
席を譲ってください。

コーディネーター  
大村 祐二



本日は、ご参加いただきありがとうございます。本日は、ご参加いただきありがとうございます。本日は、ご参加いただきありがとうございます。

北原

# パネラー

## ○和田 薫 氏

熊本市の中心部で100年以上続く酒屋さん、「中山清酒店」の店主。現  
在水道町で食事とお酒を楽しめるお店を経営。お酒や料理のウンチクも  
豊富。

## ○北原 秀敏 氏

水前寺参道商店会 会長。古くから水前寺参道を見つめてきた方。さま  
ざまな水前寺のイベントや祭りにかかわってこられた。

## ○野田 恭子 氏

27年間アメリカで暮らし、帰熊後若い熊本の人々がグローバルな視点  
を持ち、活躍できるような活動に力を入れている。略歴はレジメ参照。

# コーディネーター

大村 祐二（NPO法人 くまもと新創生プロジェクト代表）

38年間熊本の歴史文化の紹介の取り組みを行う。平成20年「くまもと  
の水検定テキスト」の編集、検定の立ち上げに携わる。



# 熊本市民のための「水」入門書 くまもとの水の秘密

- **小冊子作成** **1000部**
- 第1章 「水」の秘密
- 第2章 地下水の秘密
- 第3章 熊本の水道水の秘密
- 第4章 わき水の秘密
- 第5章 水で出来る美味しいものの秘密
- 特別寄稿 水の城下町・新町
  
- 関係者及び希望者に配布

熊本市民のための「水」入門書

くまもとの

水

の秘密

令和2年度(2020年度) 熊本市民公益活動  
くまもと・わくわく基金 支援基金 助成事業  
冠基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」

主催 「NPOくまもと新創生プロジェクト」  
事務局 〒860-0057 熊本市西区二本木3丁目7-37

## 第2章 地下水の秘密

### 地下水ってなんだろう

#### ■熊本地域の地下水の秘密

川になりにくい地域

地下水を共有する熊本地域

雨などが地表からしみ込んでいくと、地下水になります。地下水は、水を通しにくい岩盤などが受け皿となって、水を通しやすい地層(帯水層)の中にたまり、ゆっくり海へと流れています。

熊本市周辺の地下には、地下水の受け皿となる岩盤がお盆状の形をしていて、阿蘇

外輪の西側から熊本市にいたる広い範囲を包み込んでいます。これを「地下水盆」といいます。この地下水盆は阿蘇外輪から熊本市にかけて傾いています。それで熊本市に向かって地下水が流れてくるのです。この大きな地下水盆を共有している熊本市を含む11市町村を「熊本地域」と呼んでいます。この熊本地域で地下水が生まれ、利用されていると考えられています。熊本地域は面積1041km<sup>2</sup>で、熊本県人口の半数以上にあたる約100万人が暮らしています。



熊本地域の地下水盆と地下水の流れ

飲み水のほぼすべてを地下水でまかなう全国でも珍しい地域です。

#### ■阿蘇の大噴火で積もった地層

熊本地域では一年間に約20億m<sup>3</sup>の雨が降り、うち3分の1にあたる約6億m<sup>3</sup>が地下水となります。地域独特の水循環です。日本の平均年間降水量は約1700mmですが、熊本は約2000mm、阿蘇山にいたっては約3000mmも雨が降ります。降雨の多さが地下水に恵まれる一因です。

さて、巨大な熊本地域の地下水盆の上には、阿蘇火山の火砕流噴火によってできた地層(阿蘇火砕流堆積物といいます。)が厚く堆積しています。阿蘇火山は約27万年前から約9万年前にかけて4度の大火砕流噴火を起こしています。特に9万年前の噴火は九州の3分の2を覆い尽くしたといえます(このときの噴火で阿蘇火山は陥没して大カルデラができました)。この地層はたいへん水を通しやすい性質があります。これらの地層が100m以上も厚くなっている

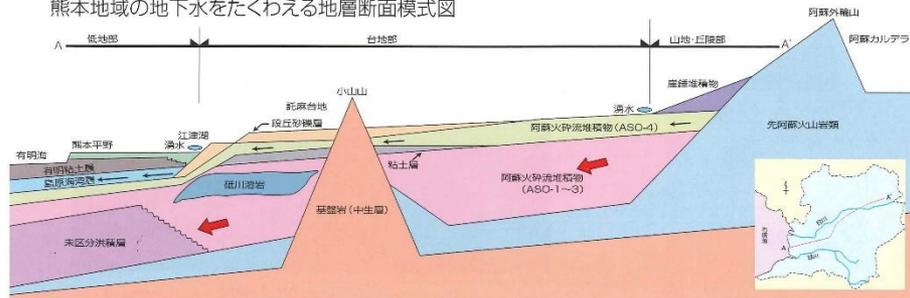
のです。豊かな地下水は阿蘇の恵みなのですね。

この厚く積もった阿蘇火砕流堆積物で、熊本地域には、託麻台地、益城台地、菊池台地があり、この台地部分が主に地下水を育てています。地下水を生み出す地域を「地下水かん養域」といいます。市北東部から阿蘇外輪につづく広大な台地部分は地下水かん養域なのです。

#### ■二階建て構造の熊本の地下水

熊本の地下水は浅い地下水と深い地下水の二階建て構造になっています。阿蘇の3回目の火砕流でできた地層(ASO3)と4回目のできた地層(ASO4)の間に、水を通しにくい粘土層が薄く入っていて、地下水を2層に仕切っています。熊本市の水道は主に深い地下水を水源にしています。深い地下水は水質が安定して良質なのです。

熊本地域の地下水をたくわえる地層断面模式図



## (2) 助成金の活用

- 参加費は無料としたため、寄付金と助成金でまか  
なつた。
- 助成金のおかげで、3人の講師料と告知チラシや小  
冊子印刷費を賄う事ができた。
- 小冊子は、1000部印刷し、様々な他の小講座や水  
のイベントで活用してもらうようにできた。

### (3)成果、市民の声(参加者やサポートを受けた方)

- 講座出席者は、多角的な視点から水のことを学べたと話された。また出席者からさまざまな意見をいただいた。
- 熊本市水道局の方々や水前寺活性化に取り組んでいる専門家からの貴重な意見も出て、活発な意見交換ができた。
- 冊子に関しては水のことのがわかり易く理解でき、子供たちにも配布したい。これを利用して水のことを地元でも講座開催したいと言って頂いた。

## (4)今後の事業展開

### 令和3年度熊本の水講座開催と小冊子作成

令和4年には、アジア太平洋水サミットが熊本市で開催。また都市緑化フェアも開催される。

日本から世界から注目される熊本市。私たち熊本市民が胸を張って誇るものは何か？誰でもが思う熊本城は市民の誇る財産であることは勿論だが、それ以上に「くまもとの水」も市民の誇るべき財産であることを理解してもらおう。知らずして誇る事も伝えることもできない。

この「くまもとの水」啓発応援事業を通して、熊本市民が自分たちの持つ水のある熊本市を詳しく知り、伝えることで、誇りをもって自分たちが持つ素晴らしい財産を守り、慈しむココロを持てば、住みやすく暮らしやすい熊本市になっていくと信じています。